

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22078	事業名	学校図書館支援事業		評価分類	A1				
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署				
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目	会計				01:一般会計	
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実			款	10:教育費					
	施策の方向	03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成			項	08:教育研究費					
重点プロジェクト	04:「未来へのピラ」プロジェクト			目	01:教育研究費		部	教育委員会事務局			
事業期間	H 21 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	子どもの読書活動の推進による法律					課	学校教育課 教育支援G	

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	子どもたちの読書離れが年々進む中、学習指導要領において、学校図書館機能の充実と計画的な活用が求められており、児童生徒が自主的・自発的に本に親しむことができるよう、学校司書等と連携して読書活動を推進する必要がある。	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者	学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。	学校図書館情報システムの運用と管理を行うとともに、学校司書の配置や学校図書館活用アドバイザーの派遣を行う。また、ファミリー読書リーダー、読書チャレンジを実施する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リーダー・読書チャレンジの実施	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リーダー・読書チャレンジの実施	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リーダー・読書チャレンジの実施	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リーダー・読書チャレンジの実施		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書6名を14校全ての小中学校に配置するとともに、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣した。読書リーダーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園(年長児)、全小学校(全学年)で実施した。					
計画額	事業費	14,600千円	14,500千円	14,000千円	14,000千円	14,700千円	
		国・県支出金					
		地方債					
		その他					
	一般財源	14,600千円	14,500千円	14,000千円	14,000千円	14,700千円	
決算額	事業費		13,530千円				
		国・県支出金					
		地方債					
		その他		13,530千円			
①期間内事業費(R4-7)		57,300千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費	-	

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	14,500千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学校図書館を活用した授業を、全学年が月1回以上実施した学校数		活動	校	計画値 実績値	14 14	14	14	14
児童生徒読書数	児童生徒1か月の一人当たりの図書貸出冊数	成果	冊	計画値 実績値	8 8	9	10	11
授業時間以外での読書状況	平日授業時間以外での読書時間「10分以上」と回答したの子どもの割合(全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙)	成果	%	計画値 実績値	小学校 60/中学校 46 小学校 65/中学校 42	小学校 61/中学校 47	小学校 62/中学校 48	小学校 63/中学校 49

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
A	図書館司書や図書館アドバイザーの配置により、読書指導の充実や図書館活用指導に取り組み、その専門性の高さから、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上につながった。読書リレーや読書チャレンジの取組は、家庭における読書習慣の定着につながった。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者	学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
読書量や読書冊数に学校差、個人差があるため引き続き、図書館司書や図書館アドバイザーと連携し、読書習慣の確立や読書の質の向上を図る必要がある。

方向性	
継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
改善・見直し内容	
令和5年度で対応する(した)もの 引き続き、学校図書館アドバイザーを各校2回程度派遣し、図書館利用促進を進めるための読書指導や調べ方学習指導等を増やしたり、教職員への研修会の内容等を充実させたりする。	令和6年度以降で対応するもの 令和5年度の実施状況を鑑み、必要に応じて、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上に向けた改善・見直しを講じていく。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A			
事業展開	継続(現状維持)			

【履歴】

1次評価者	教育委員会事務局 学校教育課教育支援GL 北川 恵美子
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏